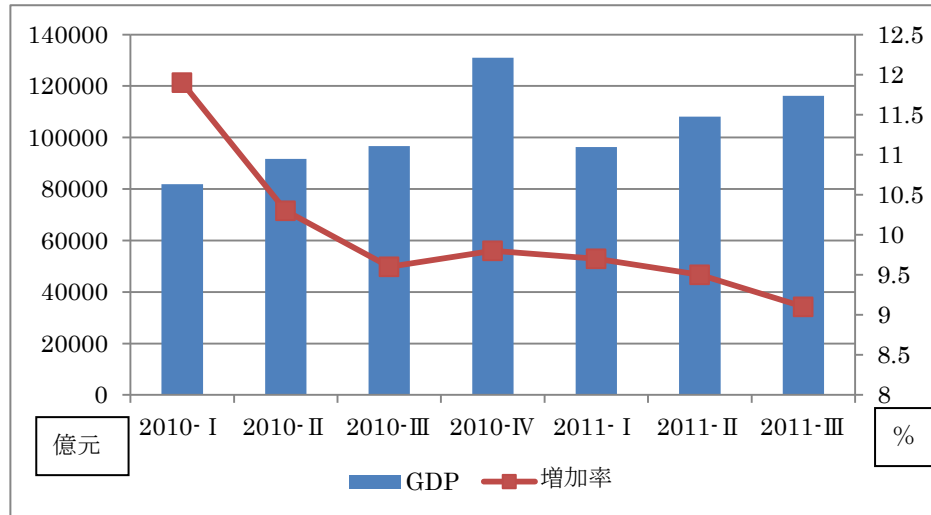


2011年10月23日

香港 花木

18日、国家統計局は第3四半期のGDP成長率を発表。

発表によれば、2011年第3四半期のGDPは11兆6,233億元で、実質GDP成長率は9.1%増となった。なお、第1～第3四半期通期での成長率は9.4%となる。また、名目では昨年同期に比べて18.7%の増加となった。



**国家統計局スポークスマン盛来運** 成長率は低下したとはいえ依然 9%以上と高い水準にある。また、固定資産投資は25%増、社会消費品小売額も17%増と底堅く、二番底、「ハードランディング」の到来を心配する必要は全くない。現在のマクロ政策については、物価の抑制が最重要課題であり、また海外における金融緩和の影響も考慮して、引き続き現状の政策を維持すべき段階だ。

**中国銀行グローバルマクロ経済首席分析官李慧勇** 成長率低下は外需の影響によるもので、消費が主導する内需は底堅い。9月の工業付加価値額は8月より0.3ポイント高い3.8%増と堅調で、想定していたより好調だ。

**交通銀行研究部高級マクロ経済分析師唐偉建** 第3四半期の景気減速はマクロコントロールの結果であり、第4四半期も引き続き減速するだろう。ただ、足元ではPMIは上昇に転じ、自動車販売もやや回復する等好転の兆しが出ており、マクロ抑制策に伴うマイナスの影響を市場がこなしつつあることが伺われる。

**HSBC 中国地域首席経済学者屈宏斌** 中国経済がソフトランディングしつつあることが示された数字である。西側経済が更にもう一段階の落ち込みを見せるとしても、中国経済の外需依存度は3年前の金融危機時より大きく低下しており、その影響は比較的軽微だろう。

18日、国家統計局は9月の工業生産動向、消費売上動向、固定資産投資動向を発表。

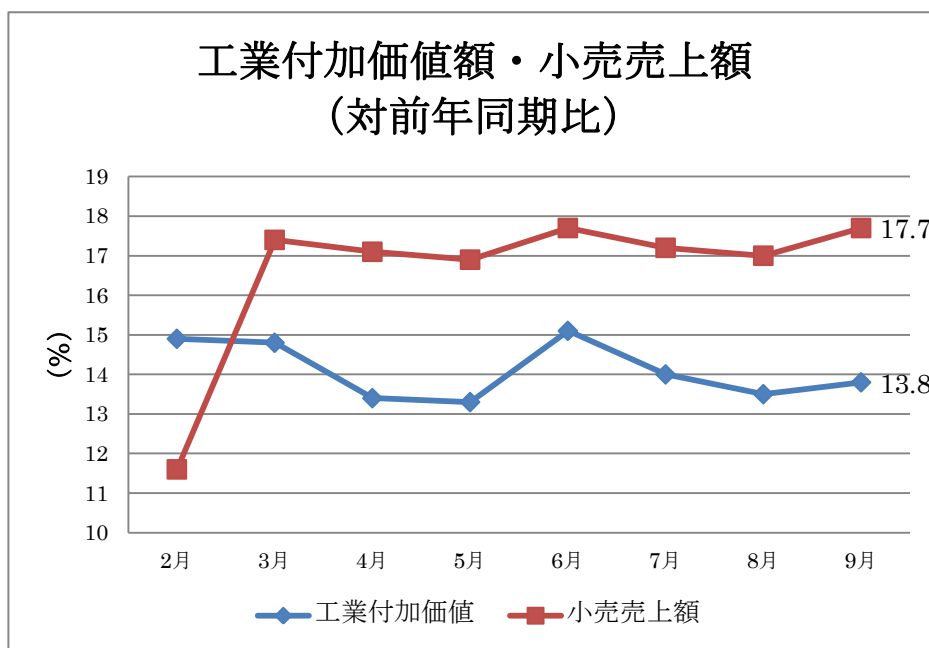
第3四半期GDP発表と同時に発表されたこれらの数字は以下のとおり、いずれも前月よりわずかながら上昇した。

【工業生産付加価値】

9月の一定規模以上工業付加価値は前年同期比13.8%増となり、前月より0.3ポイントの上昇となった。

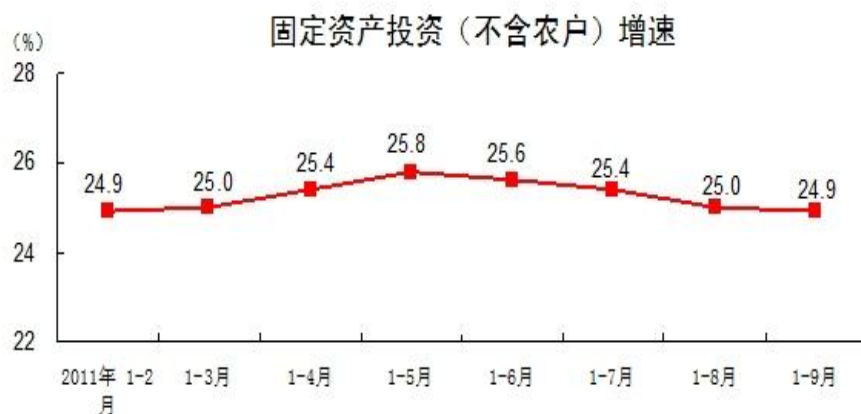
【社会消費小売総額】

9月の社会消費小売総額は17.7%（価格変動要素を除く実質で11.0%）増、うち、一定規模以上の小売業者による売上は24.7%増であった。



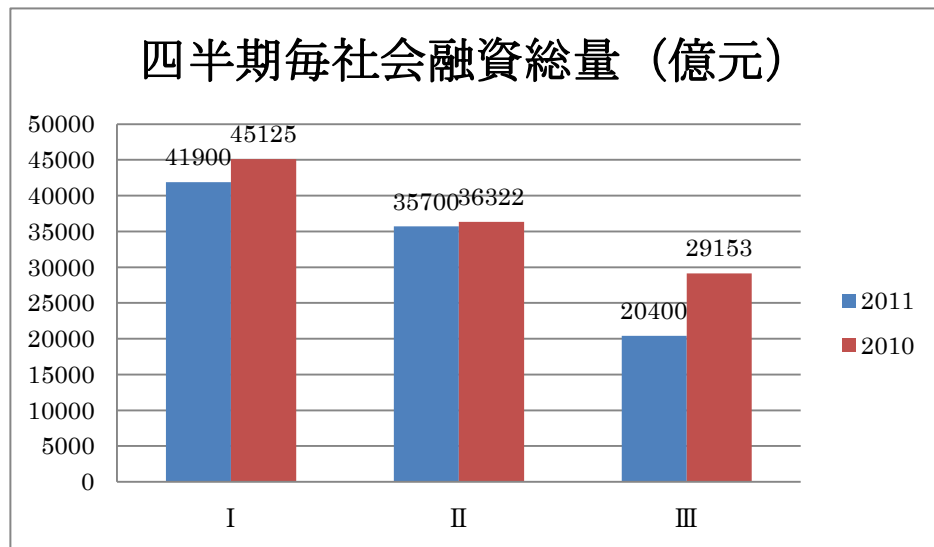
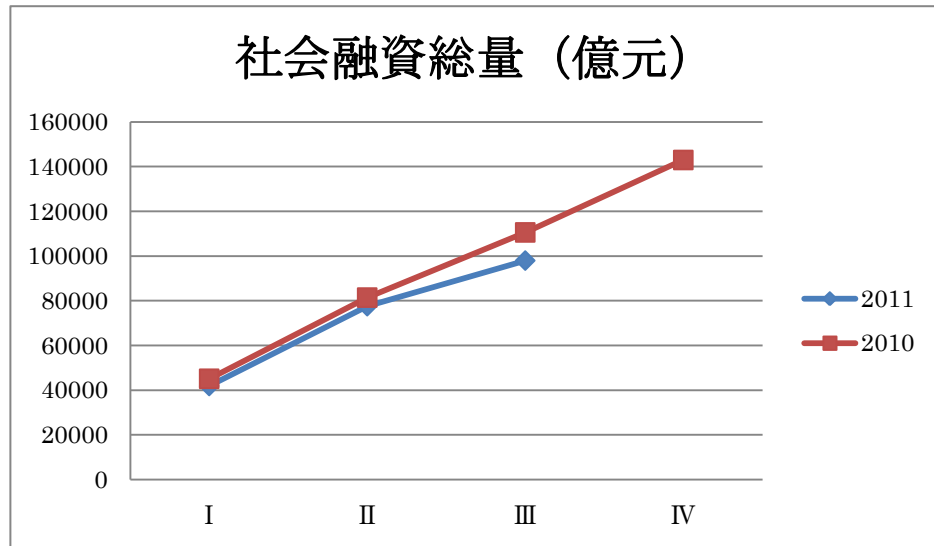
【固定資産投資】

1-9月の固定資産投資は24.9%増と前月（25.0%）より0.1ポイントの低下となった。これは、価格変動要素を除いた実質では16.9%の増となる。



20日、中国人民銀行は第3四半期の社会融資規模を発表。

発表によれば、今年第3四半期までの社会融資総量は9兆8千億元と昨年同期比1兆2千億元の大幅減となった。これを四半期毎に見ると第二四半期までは昨年同期比減3847億元にとどまっていたので、第3四半期だけで8753億元の大幅な減少となった。また、9月の人民元新規貸出は4700億元と、対前年同期比1311億元の大幅減となった。



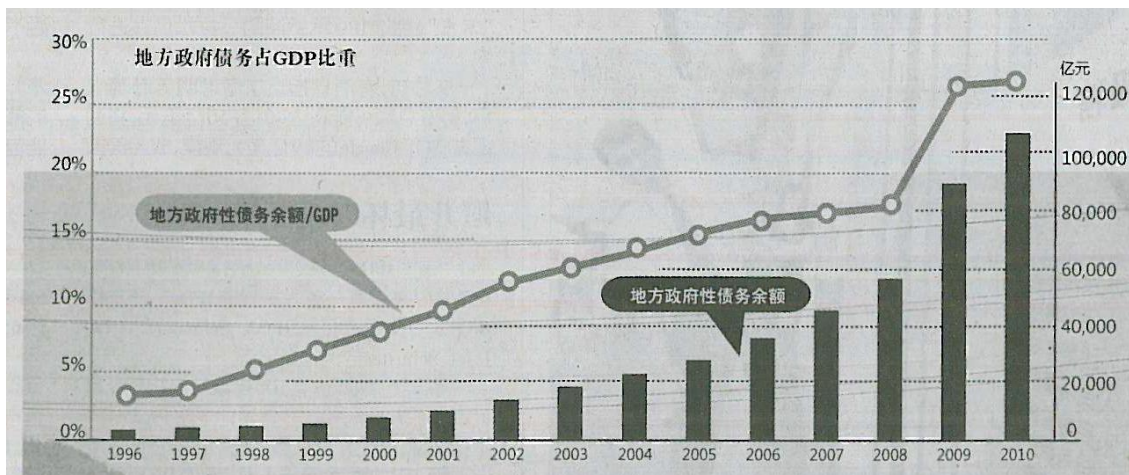
なお、今後の金融政策の方向については、21日付け21世紀経済報道によれば、18日、全人代財政経済委員会の吴晓灵副主任は、同紙記者の取材に対し、「中国経済の成長速度が更に多少下がったからといって大したことはない(没有什么)、金融政策は引き締めも緩和もせず、これまで通り「穏健」な立場を継続すべきだ」と語ったと報じられている。

### ◎今週の注目ニュース（その1） 地方債自行発行が正式にスタート

前回（No.19）で報じた地方債自主発行だが、財政部は20日付けで上海市、浙江省、広東省及び深圳市の4市に対してこれを認める通達「2011年地方政府自行発行債試点方法」を発表した。これによれば発行規模は国務院が批准した制限範囲内で、また元利の償還も財政部が代行することになっており、従来の財政部による「代理発行」とあまり相違のない仕組みのように見受けられる。

具体的な発行額はまだ明らかにされていないが、年間の「代理発行」枠2000億元のうち上記4省市分の合計251億元（上海市71億元、浙江省89億元、広東省69億元、深圳市22億元）がいまだ発行されていない状況を考慮すると、この分がそのまま「自行発行」に振り替えられると関係者は見ているようである。また、利回りについては5年もの国債（約3.7%）よりやや高く4.5~4.8%程度となりそうだとの見方が紹介されている。

（中国における地方債務残高とその対GDP比の推移）

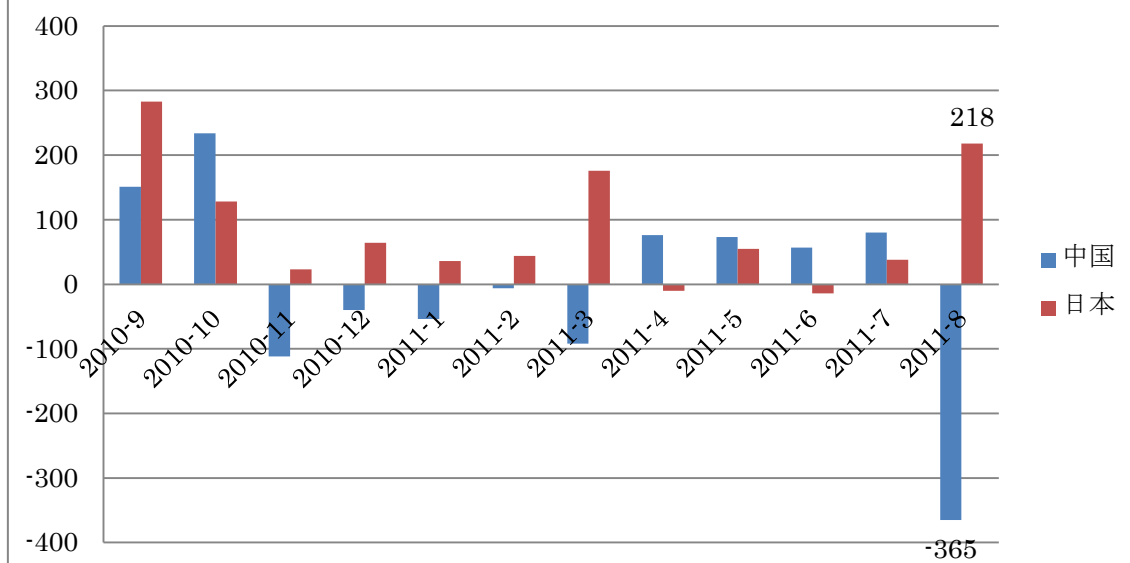


（21世紀経済報道より）

### ◎今週の注目ニュース（その2） 8月、中国が米国債を大量売却？

18日、米財務省が発表した統計によれば、中国は8月に米国債持ち高を365億ドル減少させたことが明らかになった。これについて、香港「亜州週刊」10月30日号は、8月5日S&Pが史上初めて米国債の信用格付けをAAAからAA+に引き下げた影響と見方以外に、米国の更なる量的緩和措置や台湾への武器売却への「声なき抗議」ではないかとの見方を掲載している。一方、同じ時期に日本は米国債持ち高を218億ドルと大幅に増やしている。

## 米国債持ち高の対前月比変動（億ドル）



### ◎ 今週の注目ニュース（その3） 香港貿易発展局が中国中産階級調査結果を発表

10月4日、香港貿易発展局（HKTDC）は大陸8都市（北京、長沙、成都、広州、南京、上海、瀋陽及び武漢）における1,600の中産階級を対象として行ったアンケート調査結果を発表した。調査の結果、これらの家庭の約8割が3年前より消費に対してより積極的となり、同じく8割がトレンドに敏感になったという回答が得られたという。

以下、調査の主な項目を見ると、

- － 外食に対しては44%が3年前より機会が増えたと回答し、外食の平均価格は127.3元（約1,700円）。
- － 美容サロンについては31%が3年前より行く回数が増加、また91%が月に1回以上美容サロンに通い、55%がこうしたサロンの会員権（メンバーシップ価格平均1,901元）を持っている。
- － フィットネスについては、29%が3年前より頻繁に火曜ようになったという。1年間のフィットネススタジオでの消費額は平均1,782元。
- － 旅行については、40%が香港を含む海外に3年前より頻繁に行くようになったと回答。年間の平均旅行回数は短期旅行（1回が2～3日）が2.3回、長期旅行が2.2回。

こうした調査結果を踏まえ、HKTDCは、大陸の中産階級にとって香港は旅行先としてだけでなく各種サービスの提供者としてもよいイメージがあるとした上で、今後の中産階級の増加は香港サービス産業にとって非常に大きな機会といえると結論づけている。

この結論は日本にとってもあてはまるといえよう。

#### ◎今週の注目ニュース（番外編その1）李克強氏の韓国訪問が注目集める

第17期中央委員会六中全会が15～18日に開催された後、中国共産党幹部は相次いで外遊に出かけているが、その中で李克強氏の韓国・北朝鮮訪問が香港紙の注目を集めているようだ。

今回、李克強氏は11月23～25日に北朝鮮を、その後26～27日に韓国を訪問する予定とされている。このように北朝鮮、韓国を続けて同時に訪問したことはこれまで中国共産党幹部に例がなく、今回が初めてであるというのが注目の理由である。日程を仔細に見ると、北朝鮮の滞在日数は3日間と韓国(2日間)より1日長くして配慮の跡が見られるほか、訪問先での身分も韓国は国務院副総理としての立場で訪問するのに対し、北朝鮮は中国共産党中央委員会政治局常務委員としての立場で訪問するという使い分けをしているようである。

こうした訪問の背景については憶測の域を出ないものの、香港紙「明報」20日版は、一つには中国が朝鮮半島外交においてより強い主導権を握りつつあることの反映であり自信の裏返しであること、もう一つは六カ国協議再開問題と関係があるのではないかと報じている。

#### ◎今週の注目ニュース（番外編その2）基層レベル人民代表選挙が大都市に戦場を移す

今年から来年にかけて、中国では5年に1度の基層レベル人民代表選挙が行われている。選挙は今年7月から順次行われ、既に江西省、山西省、広西チワン族自治区、陝西省及び新疆ウイグル自治区では全て終了しているほか、湖北省武漢市、広東省広州市の選挙も9月までに全て終了した。今後、選挙は大都市に移り、11月1日には天津市、8日には北京市、16日には上海市の選挙が開始されることとなっている。

基層レベルの人民代表選挙は県、市（内部に区のない市に限る）、区、郷、民族郷、鎮レベルの人民代表で行われ、これには①政党による推薦候補者、②民間団体による推薦候補者、③10名の推薦人を集めた自由候補者の3種の候補者が立候補できるとされている。ただし、このうち③の自由候補者については、選挙中に様々な妨害活動があるとされ、当選は容易なことではないようだ。今回の選挙でも自由候補者として20万人程度の出馬が見込まれるものの、その中から当選できるのは極めて限られた人数となるものと思われる。

例えば、既に選挙の終わった地域での例を見て見ると、立候補届け出時の書類をそもそも渡さないほか、記入した届け出書類の不受理、選挙運動中の候補者及び支持者に対する身体拘束、選挙日程の勝手な変更等ありとあらゆる手段を講じた妨害活動があるようで、その他にも広東省地域で最高1票2000元（約2万6千円）とも言われる票の売買も横行しているようだ。<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> 《广州市农村基层选举“贿选”问题研究》报告。广州农村蓝皮书  
[http://news.southcn.com/d/2011-10/18/content\\_31585398.htm](http://news.southcn.com/d/2011-10/18/content_31585398.htm)

11月から北京で行われる人民代表大会選挙には、当初、広州アジア大会のモデルを勤めた美人候補も朝陽区から自由候補者として出馬を表明したものの、立候補届け出書類の引き渡しを拒否され、結局出馬を断念した一幕もあったようである。ただ、立候補は断念しても、こうした模様は時々刻々とマイクロブログ等で全国に伝播しており、「中国流選挙」について幅広い国民にじわじわと情報が浸透していることは疑いない。

(以上)

**Disclaimer:** 本資料中の数字は注意してチェックしていますが正確さを保証するものではありません。

文章中意見にかかる部分は個人的見解でありいかなる組織の意見でもありません。